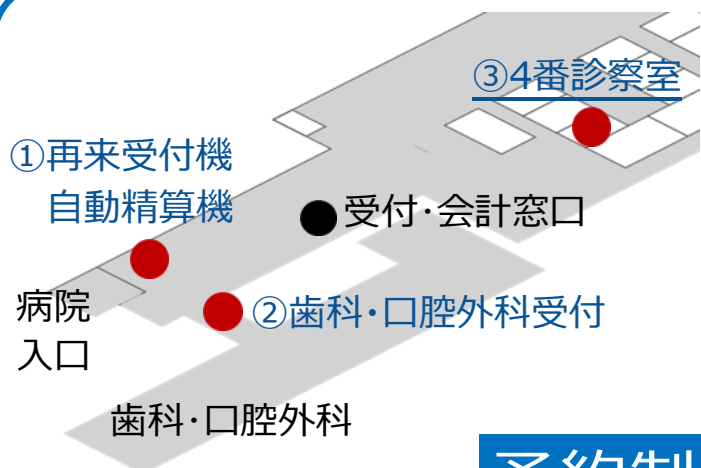


食べること、飲み込むことが困難・・・ そんなお悩みがありませんか？

食事中によくむせる、食べ物をなかなか喉に送れない、また喉に送れても上手く飲み込めない・・・
それは「摂食嚥下障害」かもしれません。

このような症状が気になる方は、**摂食嚥下センター**の受診をお勧めします。



外来診察室4番にて診察いたします。

診察までの流れ

- ①再来受付機にて受付
- ②オレンジファイルを歯科・口腔外科受付へ提出
- ③4番診察室の前でお待ちください
(お名前でお呼びします)

予約制 (下記までご連絡ください)

048-481-5865 (歯科・口腔外科直通)



摂食嚥下障害とは？

食べること、飲み込む事に困難があり、食べ物を胃まで上手く送り込めない事を言います。
摂食嚥下障害があると、次のような症状がみられます。

- 口から食べ物、唾液などが漏れる
- なかなか喉に食物が送り込めない
- 喉に詰まりやすい
- 咳き込み「むせ」が多い
- 喉がゴロゴロする
- 胸につかえている感じがする

その結果



- ◇熱が出る
- ◇痩せる
- ◇食欲が無くなる
- ◇元気が無くなる
- ◇肺炎になる
- ◇窒息を起こす

堀ノ内病院 摂食嚥下センターは、摂食嚥下障害のある方が安全に、楽しく食事がとれるようになる事を目指しています。

お宅や施設に往診し、嚥下リハビリテーションも行っています。

※検査（嚥下造影検査など）の際には、お越しいただきます。

お問合せ 048-481-5865 (歯科・口腔外科直通)

※診療の概略は裏面をお読みください。

摂食嚥下センターでの診断や治療は、次のような順序で行われます。

摂食嚥下障害を起こした原因が何であることを調べます

[例) 脳梗塞、パーキンソン病、脱水、薬の副作用など]

原因によって嚥下障害が一時的な場合、改善する場合、固定する場合、進行する場合等様々です。今後の見通し、気を付ける点等も違ってきます。そのため、摂食嚥下障害の原因をしらべることに重点を置いております。問診等などで既往歴、症状の経過などを調べ、一般内科、神経内科・呼吸器科、胃腸科、耳鼻咽喉科、精神科・・・歯科・口腔外科と緊密な連携をとっております。

摂食嚥下機能低下の様子を調べます

[例) 舌の動きが悪い、食べ物胃ではなく肺に入ってしまうなど]

視診、触診、聴診・・・を行います。たとえば脳卒中の起きた部位の違いにより、障害の様子は舌の動きに現れる場合もあれば、喉の動きに現れたりします。このように障害の様子は外部からの診察だけでは詳しく分かりません。そのため精度の高い嚥下造影（VF）検査（*）、必要に応じ嚥下内視鏡（VE）検査を出来るだけ加えるようにしています。

（*）VF検査は造影剤を含ませた食物を飲み込んで頂き、その様子をX線透視撮影する検査です。座位が取れば検査は可能で、大変安全な検査です。

摂食嚥下機能低下の原因、状態を診断・評価します

この診断に基づき、安全かつ効果的な摂食嚥下リハビリテーションのプランを立案・実施しております。また、患者様に適した食形態や食事介助の方法なども指導しています。



嚥下開始食



往診風景

〒352-0023

埼玉県新座市堀ノ内2-9-31

社会医療法人社団

堀ノ内病院

048-481-5168 (代表)